

2023年度点検・評価シート

・評価の視点【基礎要件●】は法令要件、その他基礎的要件の充足状況を判断する指針

【評価要件○】は基礎要件以外で、大学基準協会が大学基準に照らし定めた指針

・評価の視点に“※”が付されている場合は、大学基礎データ、基礎要件確認シート及び別途収集する根拠資料により、点検・評価し、適切性を判断してください。

・★のある欄は、必須記述欄です。ただし、該当なしと判断した場合は「なし」と記入してください。

・◆のある欄は、各点検・評価項目の内容について、問題点を記入してください。（ない場合は「なし」と記入）

I【現状】原則2023年5月1日現在の状況で回答してください。

| | | | |
|--|--|--------|------------|
| 対象部局 | 03 中国文学科 | 責任者 | 山口 諒司 |
| 基準4 | 教育課程・学習成果 | 自己評価 | A |
| ★基準4の自己評価の理由を簡潔に解説してください。 | | | |
| <<回答>> 本学文学部の定める規定、また本学の建学の精神に基づく中国文学科の教育課程及び学習成果の実績により学位を認定している。 | | | |
| 点検・評価項目(1) | 4-1 授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。 | | |
| <学位授与方針>（記入してください。） 【文学部】 文学部は、卒業に必要な単位を取得し、以下に示すような能力を備えていると認められる学生に、卒業の認定を行い、学士（日本文学・中国文学・英米文学・教育学・書道学・歴史文化学）の学位を授与する。 1. 豊かな教養と専門的知識およびそれを活用する技能 (1)人文諸科学に関する学識を修め、人間や世界に対する柔軟な想像力と洞察力を持つことができる。 2. 他者との共同による問題発見・解決能力と、それを支える思考・判断・表現力 (1)自ら設定した課題について、人間文化・地域文化・歴史文化・言語文化のいずれかの学問領域の研究方法を用いて、考察することができる。 (2)他者の声に耳を傾け、自分の考えを口頭表現や文章表現によって、的確に伝えることができる。 3. 自律的学習者として学び続け、社会に貢献する意欲と能力、社会の担い手としての使命感 (1)各学科で学んだそれぞれの専門性を生かし、社会において真摯に課題に取り組み、解決しようと努力することができる。 (2)国際社会に対する広い識見をもとに、周囲と力を合わせ、未来を創造していく過程に参加することができる。 4. 本学の建学の精神や本学の理念に対する理解 (1) 多文化の横断的学びを通して、人文科学分野で社会との共生を実感できる成果をもたらし、社会に発信する新しい文化の創造に資することができる。 | | 変 更 | 有() 無() |
| 【中国文学科】 中国文学科は、卒業に必要な単位を取得し、以下に示すような能力を備えていると認められる学生に卒業の認定を行い、学士（中国文学）の学位を授与する。 1. 豊かな教養と専門的知識およびそれを活用する技能 (1) 中国の伝統的な文学・歴史・哲学や思想を学ぶことによって、中国の文化や歴史の知識を身につけ、中国文化の影響を受けた日本の歴史や文化を改めて理解し、同時に日本語の中の漢字・漢語の知識や中国語の能力を修得し、それらを活用する技能を発揮することができる。 2. 他者との共同による問題発見・解決能力と、それを支える思考・判断・表現力 (1) 中国の伝統的な文学・歴史・哲学や思想の中から課題を発見し、その課題を深く考える洞察力や判断力を養い、論理的な文章としてまとめ、それを表現することができる。 3. 自律的学習者として学び続け、社会に貢献する意欲と能力、社会の担い手としての使命感 (1) 中国の伝統的な文学・歴史・哲学や思想を生涯にわたって学び続け、その修得した知識を社会の担い手としての使命感のもとに意欲的に活用していくことができる。 4. 本学の建学の精神や本学の理念に対する理解 (1) 本学の建学の精神（漢学の振興と東西文化の融合）を自覚しながら、学びの成果を国際的な多文化社会における諸問題の解決に活用できる。 | | | |
| 評価の視点1 【基礎要件●】 | 上記の方針は、修得すべき知識、技能、態度等の学修成果が明示され授与する学位にふさわしい内容となっている。 | | |

| | | |
|--|--|----------------|
| 評価の視点2※ 【基礎要件●】 | 上記の方針を公表しており、媒体や表現の工夫等により、情報の得やすさや理解しやすさに配慮している。 根拠資料→A1-6-1Web サイト（大東文化大学の基本方針）、基礎要件確認シート7 | |
| ◆学位授与の方針の内容や、公表の仕方について問題点があれば記述してください。 | | |
| <回答> なし。 | | |
| 点検・評価項目(2) | 4-2 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。 | |
| <教育課程の編成・実施方針>（記入してください。） 【文学部】 文学部は、卒業認定・学位授与方針に掲げる能力を修得させるために、以下のような内容、方法、評価の方針に基づき、教育課程を編成する。 1. 教育内容 (1)最初に、多様な現代社会に対応できるように、学部・学科を越えた全学共通科目として自然・社会・人文諸科学の各科目を学ぶ。さらに基礎教育科目としての外国語科目・情報処理科目等、また、キャリア・ジェンダー・芸術（創作を含む）といった現代社会において必須とされる諸科目を学び、各専門科目への基礎を築く。 (2)次に、日本文学科・中国文学科・英米文学科・教育学科・書道学科・歴史文化学科の6学科それぞれの基礎科目と専門科目を学ぶ。それらは各学科において体系的にカリキュラムが組まれている。 2. 教育方法 (1)各学科においては、少人数制のゼミや実践研究における課題に取り組むことによって、資料・情報の分析・読解能力、批評能力、自己表現能力、コミュニケーション能力、創造的実践能力の育成が目指されている。 (2)さらに各学科において、卒業論文や卒業制作、研究テーマへの総合的取り組みが、個別的指導のもとに行われる。 3. 評価方法 (1)学位授与方針で掲げられた能力の評価として、文学部における卒業要件達成状況、単位取得状況、GPA、外部客観テスト等の結果によって測定するものとする。 (2)4年間の総括的な学修成果として、複数教員による卒業論文等の評価を行う。 【中国文学科】 中国文学科は、卒業認定・学位授与の方針に掲げる能力を修得させるために、以下のような内容、方法、評価の方針に基づき、教育課程を編成している。 1. 教育内容 (1)初年次には必修科目「漢文入門」において文献読解に必要なスキルを学ぶ。 (2)初年次には必修科目「中国哲学基礎演習1（論語）」、「中国文学基礎演習1（唐詩）」、「中国語学基礎演習1・2」「中国語入門」において読解力、基礎知識、語学力を養成する。 (3)2年次には必修科目「中国哲学基礎演習2（孟子）」、「中国文学基礎演習2（十八史略）」、「中国語学基礎演習3・4」、「中国語学基礎演習」において読解力、基礎知識、語学力をさらに伸ばす。 (4)3年次以降は選択科目で文学、哲学、歴史に関する分野を広く学ぶことで理解を深めるとともに、文学、哲学、歴史から所属するゼミを一つ選択し、自ら設定したテーマを調査し考察を加える。 | | 変 有() 更 無() |
| 評価の視点1 【基礎要件●】 | 上記の方針は、教育課程の体系、教育内容、教育課程を構成する授業科目区分、授業形態など、教育についての基本的な考え方を明示している。 | |
| 評価の視点2 【基礎要件●】 | 上記の方針は、学位授与方針に整合している。 | |
| 評価の視点3※ 【基礎要件●】 | 上記の方針を公表しており、媒体や表現の工夫等により、情報の得やすさや理解しやすさに配慮している。 根拠資料→A1-6-1Web サイト（大東文化大学の基本方針）、基礎要件確認シート7 | |
| (DP と CP の各項目の番号を矢印で紐づけてください。) | | |
| DP1. (1) → CP1. (1)、CP1. (2)、CP1. (3) DP2. (1) → CP1. (4)、CP2. (3) DP3. (1) → CP1. (3) (4)、CP2. (3) DP4. (1) → CP1. (3) (4)、CP2. (3) | | |

★項目(2) 4-2DP1からDP4について、それぞれの内容がどのようにCPの内容に反映されているのか(あるいは教育課程のどこで具現化されるのか)、その連関について説明してください。

以下の事例を参考に記述してください。※事例は過去のものであり、なおここではDP1のみ抜粋ですが続きがあります。

・DP「1. 知識・技能」(1)に明示した、「日本の文学と言語・文化に関する基本的な知識」「専門的な知見」と、DP「1. 知識・技能」(2)の「文献や資料を的確に読解する」については、CP「1. 教育内容」(1)で、『日本文学史概説』『日本語学概説』などで体系的・通史的な知識や素養を身につけ』とされ、CP「1. 教育内容」(2)で『日本文学講読』『日本語学講読』や各分野の「特殊講義」などで、特定の主題に関する専門的な知識を身につける。』と明示されている。

《回答》

DP「1. 知識・技能」の「1. 中国の伝統的な文学・歴史・哲学や思想を学ぶことによって、中国の文化や歴史の知識を身につけ、中国文化の影響を受けた日本の歴史や文化を改めて理解し、同時に日本語の中の漢字・漢語の知識や中国語の能力を修得し、それらを活用する技能を発揮することができる」については、CP「1. 教育内容」1～3の「漢文入門」「中国哲学基礎演習」「中国文学基礎演習」「中国語学基礎演習」「中国語入門」等で漢文の読解力、基礎知識、語学力等を身につけ、DP「2. 思考力・判断力・表現力」の「1. 中国の伝統的な文学・歴史・哲学や思想の中から課題を発見し、その課題を深く考える洞察力や判断力を養い、論理的な文章としてまとめ、それを表現することができる」については、CP「1. 教育内容」4の「選択科目で文学、哲学、歴史に関する分野を広く学ぶことで理解を深めるとともに、文学、哲学、歴史から所属するゼミの一つを選択し、自ら設定したテーマを調査し考察を加える」、「2. 教育方法」3の「特別演習、卒論指導では少人数ゼミの履修を必修化し、課題の設定から卒業論文作成まで指導する」等の専門的な思考や表現力を身につける。

DP「1. 豊かな教養と専門的知識およびそれを活用する技能」の「(1) 中国の伝統的な文学・歴史・哲学や思想を学ぶことによって、中国の文化や歴史の知識を身につけ、中国文化の影響を受けた日本の歴史や文化を改めて理解し、同時に日本語の中の漢字・漢語の知識や中国語の能力を修得し、それらを活用する技能を発揮することができる」については、CP「1. 教育内容」(1)～(3)の「漢文入門」において文献読解に必要なスキルを学び、「中国哲学基礎演習1(論語)」「中国文学基礎演習1(唐詩)」「中国語学基礎演習1・2」「中国語入門」等で漢文の読解力、基礎知識、語学力等を身につける。

DP「2. 他者との共同による問題発見・解決能力と、それを支える思考・判断・表現力」の「(1). 中国の伝統的な文学・歴史・哲学や思想の中から課題を発見し、その課題を深く考える洞察力や判断力を養い、論理的な文章としてまとめ、それを表現することができる」については、CP「1. 教育内容」(4)の「選択科目で文学、哲学、歴史に関する分野を広く学ぶことで理解を深めるとともに、文学、哲学、歴史から所属するゼミの一つを選択し、自ら設定したテーマを調査し考察を加える」ため、「2. 教育方法」(3)の「必修科目「中国哲学基礎演習2(孟子)」「中国文学基礎演習2(十八史略)」「中国語学基礎演習3・4」「中国語基礎演習」等において読解力、基礎知識、語学力をさらに伸ばす。

DP「3. 自律的学習者として学び続け、社会に貢献する意欲と能力、社会の担い手としての使命感」の「(1) 中国の伝統的な文学・歴史・哲学や思想を生涯にわたって学び続け、その習得した知識を社会の担い手としての使命感のもとに意欲的に活用していくことができる」については、CP「1. 教育内容」「2. 教育方法」(3)の「必修科目「中国哲学基礎演習2(孟子)」「中国文学基礎演習2(十八史略)」「中国語学基礎演習3・4」「中国語基礎演習」等において読解力、基礎知識、語学力をさらに伸ばす」とともに、(4)の「選択科目で文学、哲学、歴史に関する分野を広く学ぶことで理解を深めるとともに、文学、哲学、歴史から所属するゼミの一つを選択し、自ら設定したテーマを調査し考察を加える」ことを通じ、社会の担い手として学びを活用していく力を養う。

DP「4. 本学の建学の精神や本学の理念に対する理解」の「(1) 本学の建学の精神(漢学の振興と東西文化の融合)を自覚しながら、学びの成果を国際的な多文化社会における諸問題の解決に応用できる」については、CP「1. 教育内容」「2. 教育方法」(3)の「必修科目「中国哲学基礎演習2(孟子)」「中国文学基礎演習2(十八史略)」「中国語学基礎演習3・4」「中国語基礎演習」等において読解力、基礎知識、語学力をさらに伸ばす」中で建学の精神や本学の理念を理解し、(4)の「選択科目で文学、哲学、歴史に関する分野を広く学ぶことで理解を深めるとともに、文学、哲学、歴史から所属するゼミの一つを選択し、自ら設定したテーマを調査し考察を加える」中で、その学びの成果を国際的な多文化社会における諸問題の解決に応用できる力を養う。

◆教育課程の編成・実施方針の内容や、公表の仕方について問題点があれば記述してください。

《回答》

なし。

| | |
|------------|--|
| 点検・評価項目(3) | 4-3 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。 |
| 評価の視点1※ | 教育課程の編成・実施方針と教育課程の整合性を図っている。根拠資料→A1-1*学則、A4-43Web サイト シラバス |
| 評価の視点2※ | 学習の順次性に配慮した各授業科目の年次・学期配当をしている。根拠資料→B4-68Web サイト カリキュラ |

| | | |
|---|--|------------------------------|
| | ムツリー | |
| 評価の視点3※ | 専門分野の学問体系を考慮した教育課程を編成している。 根拠資料→A4-12Web サイト カリキュラムマップ | |
| 評価の視点4※ | 学習成果を修得させるために適切な授業期間を設定している。 根拠資料→A1-1*学則、B1-10-1~8 2023年度 各学部履修の手引き | |
| 評価の視点5※ | 単位制度の趣旨に沿った単位の設定をしている。 根拠資料→A1-1*学則、基礎要件確認シート9、10 | |
| 評価の視点6※ | 教育課程を編成する措置として、個々の授業科目の内容及び方法は適切に設定されている。 根拠資料→A4-13Web サイト 科目ナンバリング、A4-43Web サイト シラバス | |
| 評価の視点7※ | 編成方針に基づき、授業科目を必修、選択等位置づけており履修の手引きに掲載している。 根拠資料→B1-10-1~8 2023年度 各学部履修の手引き | |
| 評価の視点8 | 初年次教育・高大接続に配慮した授業として、「プレイメントテスト」などによるクラス編成や、基礎的な科目の内容を深める授業を実施している。 | |
| ★項目(3) 4-3①初年次教育・高大接続に配慮した授業について、根拠資料（該当するシラバス、履修の手引き該当ページなど）を用いて、概要を解説してください。 | | |
| ＜回答＞ | 初年次教育として、テキスト「漢文入門」を学科独自に作成し、漢文未習学者にも対応している。 必修科目「漢文入門」では、中国文学科で活用する基本的な力を学ぶ授業となっており、この授業で学んだ知識・技能は卒業するまで活かせるものである。 | ＜根拠資料＞ 03-C4-1:シラバス(漢文入門) |
| 評価の視点9※ | 教養教育と専門教育を適切に配置している。 根拠資料→B1-10-1~8 2023年度 各学部履修の手引き | |
| 評価の視点10※ | 学科の教育研究上の目的や課程修了時の学修成果と、各授業科目との関係を明確にしている。 根拠資料→A4-12Web サイト カリキュラムマップ | |
| 評価の視点11 | 学生の社会的、職業的自立を図るために必要な能力を育成する教育を実施している。 | |
| ★項目(3) 4-3②社会的、職業的自立を図るために必要な能力の育成として実施しているキャリア教育について、根拠資料（該当するシラバス、教育プログラムの場合はその制度が分かる資料など）を用いて回答してください。 | | |
| ＜回答＞ | なし。 | ＜根拠資料＞ 03-C4-2:なし |
| ★項目(3) 4-3③「DAITO BASIS」科目として推奨されている科目で、全学共通科目以外として推奨している学部開設の科目について、科目名を明記してください。また、その設定・選定の基準について説明してください。 | | |
| ＜回答＞ | 総合英語A・B。本学科生の国際的コミュニケーション能力の基礎力を確保するため、選定された。 | |
| ★項目(3) 4-3④当該部局のカリキュラム全体の編成と、授業科目の配置の特色について解説してください。 | | |
| ＜回答＞ | 1～2年次には必修科目において必要な基礎知識、読解力、語学力を養成する。3年次以降は選択科目で文学、哲学、歴史に関する分野を広く学ぶことで理解を深めるとともに、文学、哲学、歴史から所属するゼミを選択し、自ら設定したテーマを調査し、考察を加える。 | |
| ◆授業科目の開設や、教育課程の体系的な編成について問題点があれば記述してください。 | | |
| ＜回答＞ | なし。 | |
| 点検・評価項目(4) | 4-4 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。 | |
| 評価の視点1※ 【基礎要件●】 | 学位課程の特性に応じた単位の実質化を図るため、履修登録単位数の上限設定を実施している。 根拠資料→A1-1*学則、基礎要件確認シート9 | |
| ★項目(4) 4-4①履修登録単位数の上限設定について、一部の科目を対象外としている場合、単位の実質化を図るうえでどのような措置をとっているか回答してください。 (注:「単位の実質化を図る措置」としては、教育課程上の配慮、授業時間外における学習を促進するための取り組みや、学習支援などです。いずれの場合もどのように取り組んでいるかを具体的に記述してください。) | | |
| ＜回答＞ | 対象外としている科目は、諸資格過程科目のみである。時間割編成時に学科の必修科目と重複しないよう配慮している。 | |

| | |
|--|---|
| ★項目(4) 4-4②規則上、長期海外留学からの帰国学生、編入学生、転学部・転学科生については、教授会の審査・承認を経て、上限を超える履修登録を認めることができる（履修登録単位数の上限を超えることを承認した教授会議事録が必要）。とあります。この場合も単位の実質化を図るうえでどのような措置をとっているか回答してください。 | |
| <<回答>> 留学先の成績証明書やシラバス（あれば）を確認しながら、単位認定を行っている。 | <<根拠資料>> 03-C4-3：該当者がいないためなし |
| ★（上限設定の対象外としている科目を履修登録している学生数を記入してください。） | |
| ①諸資格科目（教職課程科目、その他諸資格科目、副専攻等）履修学生数：77人 | |
| ②長期海外留学終了者 学生数：0人 | |
| ③編入生 学生数：0人 | |
| ④転学部・転学科生 学生数：0人 | |
| 評価の視点2※ | シラバスの内容（到達目標・学修成果の指標・授業内容及び方法・授業計画・授業準備のための指示・成績評価方法及び基準等の明示）に基づいた授業を実施し、整合性が図れている。 根拠資料→A4-43Web サイト シラバス、B6-21-1「学生による授業認識アンケート」 |
| 評価の視点3※ | シラバスの記載内容の第三者チェックの実施結果を教授会で報告、検証している。 根拠資料→B4-40 シラバスチェック実施報告、B4-42 シラバスチェック体制 |
| 評価の視点4 | 学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容及び授業方法を取り入れている。 |
| ★項目(4) 4-4③学生の主体的参加を促す授業について、以下(1)(2)(3)(4)に該当する事例を根拠資料（該当するシラバス、履修の手引き該当ページなど）を用いて解説してください。 | |
| (1)主体的な学び（演習、実習、フィールドワークなど）の事例 | |
| <<回答>> 「特別演習（哲学・文学にそれぞれ1と2）3・4年次履修（通称ゼミ）は、2年次に希望するゼミ選択を行う。自ら設定したテーマを調査し、考察に加える。そして、各自のテーマごとに卒業論文を作成する。 | <<根拠資料>> 03-C4-5：シラバス（ゼミ） |
| (2)インタラクティブ（双方向）な授業展開のための少人数授業の事例 | |
| <<回答>> 教職科目は、受講者数が偏らないようクラス指定科目としている。授業の内容によって、演習形式、発表やディスカッションの形式が多くを占めており、双方向な授業が展開されている。 | <<根拠資料>> 03-C4-6：シラバス（教職科目）、受講者数一覧（教職科目） |
| (3)教員・学生間や学生同士のコミュニケーション機会の確保の事例 | |
| <<回答>> 新入生ガイダンスでは学生と教員間でコミュニケーションを取る材料として、自己紹介カード（出身や趣味・特技等）を記入させ、回収している。 また、学生のクラス指定科目（1～2年次）やゼミ（3～4年次）は、それぞれ2年間ずつ同じクラスやゼミの学生と授業を受けるため、授業外でも密なコミュニケーション機会を確保している。 | <<根拠資料>> 03-C4-7：自己紹介カードフォーマット、シラバス（クラス指定科目・ゼミ） |
| (4)授業方法として、グループ活動の活用の事例 | |
| <<回答>> 教職科目では、実際の中学校・高等学校の授業を想定した学習形態となり、模擬授業やグループワークも取り入れている。 | <<根拠資料>> 03-C4-8：シラバス（教職科目） |
| (5)効果的な授業方法について上記(1)～(4)以外の事例 | |
| <<回答>> なし。 | <<根拠資料>> 03-C4-9：なし |
| 評価の視点5 | 学習の進捗と学生の理解度の確認 |
| ★項目(4) 4-4④授業を行ううえで、学習の進捗と受講する学生の理解度の確認をするために、当該部局としてどのような措置を講じているか、回答してください。 | |
| <<回答>> レポート提出、小テスト、発表などで学習の進捗や受講者の理解度を確認している。 | |
| 評価の視点6※ | 授業の履修に関する指導、その他効果的な学習のための指導 （履修登録に関するガイダンスやオリエンテーションなど適切な履修指導を実施している（オンラインも含） |

| | |
|---|--|
| | む)。根拠資料→B4-69 履修登録に関するガイダンスやオリエンテーション実施要項、(オンラインの場合は Web サイトも可→別紙の備考に URL 記入) |
| 評価の視点 7 ※ | 授業外学習に資する適切なフィードバックや、量的・質的に適当な学習課題の提示 根拠資料→A4-43 Web サイト シラバス |
| ★項目 (4) 4-4⑤ オンライン教育も含めて、授業外学習に資するフィードバックの方法や、量的・質的に適当な学習課題を提示しているか、どのように確認していますか。その方法などについて根拠資料を用いて回答してください。 | |
| <回答> DB ポータル、Manaba などの活用によって授業外学習の課題提示の確認を行っている。 | <根拠資料> 03-C4-10: DBポータル課題提示画面 |
| 評価の視点 8 | 授業形態によって 1 授業あたりの学生数について配慮している。 |
| ★項目 (4) 4-4⑥ 授業形態 (講義、実習、演習) によって、1 授業当たりの学生数を設定している場合、授業形態別に事例を回答してください。(例: 演習科目、実習科目は少人数 (原則 10 名以下)、大規模講義科目は原則 200 名まで、など) | |
| <回答> ゼミは定員 10 名としている。事前希望調査時に第 3 希望まで回答してもらい、成績順にゼミを決定する。 | |
| 評価の視点 9 | 学習を活性化するための学習支援ツールや授業外学習 (予習・復習) を奨励する取り組みを実施している。 |
| ★項目 (4) 4-4⑦ 学習支援ツールや授業外学習 (予習・復習) を奨励する取り組みについて、記述してください。 | |
| <回答> なし。 | <根拠資料> 03-C4-11: なし |
| ◆学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための措置について問題点があれば記述してください。 | |
| <回答> なし。 | |
| 点検・評価項目 (5) | 4-5 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。 |
| 評価の視点 1 ※ 【基礎要件●】 | 成績評価及び単位認定を適切に行うための措置として以下を行っている。 ・単位制度の趣旨に基づく単位認定 ・既修得単位認定等の適切な認定 ・GPA による成績評価 ・成績評価の客観性、厳格性、公正性、公平性を担保するための措置 ・卒業・修了要件の明示 ・成績評価及び単位認定に関わる全学的ルールの設定その他全学内部質保証推進組織の関わり 根拠資料→A1-1*学則、基礎要件確認シート 10,12、B4-74 オンライン教育に鑑み成績評価の公正性、公平性を担保するための措置を示す資料 |
| 評価の視点 2 ※ 【基礎要件●】 | 学位授与を適切に行うための措置として以下を行っている。 ・学位論文審査がある場合、学位論文審査基準の明示・公表【修士・博士】 ・学位審査及び修了認定の客観性及び厳格性を確保するための措置 ・学位授与に係る責任体制及び手続の明示 ・適切な学位授与 ・学位授与に関わる全学的なルールの設定その他全学内部質保証推進組織等の関わり 根拠資料→A1-1*学則、A4-36*学位規則、基礎要件確認シート 10,12 |
| ◆成績評価、単位認定及び学位授与について問題点があれば記述してください。 | |
| <回答> なし。 | |
| 点検・評価項目 (6) | 4-6 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。 |
| 評価の視点 1 ※ 【評価要件○】 | 学位課程の分野の特性に応じた学修成果を測定するための指標 (特に専門的な職業との関連性が強いもの) については、当該職業を担うのに必要な能力の修得状況を適切に把握できるものを。)を設定している。 ※指標は定量的指標、定性的指標を複数組み合わせ設定することが望ましい。 根拠資料→B4-70 学習成果の測定指標と測定方法及び測定結果 |
| 評価の視点 2 ※ 【評価要件○】 | 学生の学習成果の測定方法を開発している。 <学習成果の測定方法例> |

| | |
|--|--|
| | <ul style="list-style-type: none"> ・アセスメント・テスト ・ルーブリックを活用した測定 ・学習成果の測定を目的とした学生調査 ・卒業生、就職先への意見聴取 <p>根拠資料→B4-70 学習成果の測定指標と測定方法及び測定結果</p> |
| <p>★項目(6) 4-6①全学部・学科、研究科・専攻で共通設定している「DPに示す学習成果（能力や資質）」「学生アンケートや調査」以外で、部局独自として設定している学習成果の測定をするための指標と、その測定方法をすべて記述してください。</p> | |
| <p>《回答》</p> <p>卒業論文の成績</p> <p>必修科目のため全学生が卒論を提出、提出者の5割以上がS～A評価を目標とする。</p> | <p>《根拠資料》</p> <p>03-C4-12：卒論の成績調査資料（2021）、部局ごとの評価指標（2022～2025）</p> |
| <p>★項目(6) 4-6②学習成果を測定した結果（共通設定と、独自設定含む）について代表的事例を回答してください。また、全ての測定結果を根拠資料として提出してください。</p> | |
| <p>《回答》</p> <p>休退学以外、全学生の提出を達成。ただし、45%がS～A評価だった。以前は全学生の提出は未達成だったが、50%以上がS～A評価。今後は全学生の提出および5割以上S～A評価を目指すべく、学生指導に努めていきたい。</p> | <p>《根拠資料》</p> <p>03-C4-13：卒論の成績調査資料（2020・2021）</p> |
| <p>★学習成果の指標と測定方法に関する課題や長所などを記述してください。</p> | |
| <p>《回答》</p> <p>必修科目である卒業論文は4年間の総括的な学修成果となる。本学科で養われた理解力・知識力・読解力等を数値化し、指導方法の検討に活用する。</p> | |
| <p>★学習成果の測定結果の分析方法に関して課題や長所などを記述してください。</p> | |
| <p>《回答》</p> <p>なし。</p> | |
| <p>点検・評価項目(7)</p> | <p>4-7教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取組を行っているか。</p> |
| <p>評価の視点1※</p> <p>【評価要件○】</p> | <p>適切な根拠(資料、情報)に基づく定期的な点検・評価を実施している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習成果の測定結果の適切な活用 <p>根拠資料→B4-70 学習成果の測定指標と測定方法及び測定結果、B2-51 2023年度点検・評価シート、B2-52 会議録(または準ずるメール記録)：(開催日) 2023年度自己点検・評価について</p> |
| <p>評価の視点2</p> <p>【評価要件○】</p> | <p>点検・評価結果に基づく改善・向上に向けた取組を行っている。</p> |
| <p>★項目(7) 4-7①学習成果測定の実績と、実際の測定結果にもとづいた教育改善の取り組み状況を、具体的に回答してください。</p> <p>他大学事例：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・論文やプレゼンテーションなど成果報告の機会が広がり、その開催方法も交流や競争性を取り入れた場へと展開している。 ・「学生の授業に関する調査」結果に対して、授業担当者はコメントや具体的な改善策を公表している。 ・英語に関する学習成果把握の取り組みとして、全学年対象の英語アチーブメントテストの結果を英語スコア管理システムにより一元的に管理しFD部会でデータの検証を行い英語教育の改善に取り組んでいる。 ・論文中間発表や論文審査基準の結果をもとに、カリキュラムとその内容、授業方法を自己点検し、特に博士論文は、助成制度を設けているため学術的水準の維持、向上に繋げている。 | |
| <p>《回答》</p> <p>今後活用できるように検討中。</p> | <p>《根拠資料》</p> <p>03-C4-14：なし</p> |
| <p>★項目(7) 4-7②改善・向上に向けてこれまでに取り組んだこと、現在取り組んでいることがあれば、具体的に回答してください。</p> <p>2019年度以降の取り組みも含めて記述してください。</p> | |
| <p>《回答》</p> <p>具体的な取り組みについて検討中。</p> | <p>《根拠資料》</p> <p>03-C4-15：なし</p> |

Ⅱ現状を踏まえ、長所・特色として特記する事項（工夫していること）を、意図した成果（目標）を明確にして記述してください。

※注：前年度の取り組みに限らず、過去から継続している事項も含める

| | |
|-------------------|---|
| 長所・ 特色 | <p>漢文未習学者にも対応できるような独自テキストを使用し、本学科で活用できるスキルを身に付け、授業理解度が増すように配慮している。また、クラス指定科目や2年間のゼミを通して、学生と教員が密なコミュニケーションを計れるような機会を確保している。コロナ禍を機に、オンラインツール（manaba、DB ポータル、Zoom 等）の活用も進み、授業外学習や面談、卒論指導等も積極的に行ってきた。</p> <p>本学科の志願者は伸び悩んでいるが、修学意欲を高め、学生と教員の距離を近づけることによって、在学生の休退学を減らしていくことを目標としている。</p> |
|-------------------|---|

Ⅲ 今回の点検・評価の結果、明らかになった新たな問題点や課題について、今後の方針や計画を含めて記述してください。

※注：複数記述可、ただし2023年度事業計画としてアクションプランを策定しているものは除く

| | |
|-------------------------|-----|
| 問題 点・ 課題 | なし。 |
|-------------------------|-----|

Ⅳ【改善計画（事業計画）】

| カ テ ゴ リ | 計 画 番 号 | B 票№ or 開始 年度 | 改善計画 (アクションプ ラン) | 内容 (改善を要すると判断した根拠) | 目標の評価指標 | 目標値 | 年度計画 |
|------------------|------------------|----------------------------|--|--------------------|----------------------|--|---|
| ② | 2 | 2022- 4Ⅲ- 1(4- 7) | (4-7 学習成果の 測定結果の活用) 教育効果の可視 化 | 「教育効果の可視化」を具体化する。 | 「教育効果の可視 化」を具体化する | A : 80~90%以上 B : 50%以上 C : 30%以上 D : 2022 年度の分析 | 2022 末結果 : D 2023 : B 2024 : A 2025 : A 2026 : A 2027 : A 2028 : A |

Ⅴ【内部質保証委員会による点検・評価】

| |
|--|
| <p>2022 年度〈所見〉</p> <p>DB ポータル、Manaba などの活用によって授業外学習の課題提示の確認を行っている点は、高く評価できる。</p> <p>また、2021 年度に学習成果の評価指標を定めており、評価の指標は、学位授与方針（DP）に示した学習成果の積み上げ（能力の積算）、学習成果の測定を目標とした学修行動調査等、卒業論文の成績としている。活用としては、カリキュラムの検証、DP に示した学習成果（能力の積算）との検証、学修支援内容の検討としている。これらの測定結果は今後、基準4の点検・評価の際の根拠資料として提出することになる。今後、測定結果を活用した改善・向上への取り組みが望まれる。</p> |
| <p>2023 年度〈所見〉</p> <p>中国文学科の教育課程は DP（学位授与方針）と CP（教育課程の編成・実施方針）の関連が明確な形で編成されている。そのことは、カリキュラムツリー、カリキュラムマップ等にもとづいた点検・評価シート等の根拠資料から確認できる。</p> <p>学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための措置として、初年次教育用のテキスト『漢文入門』を作成し、新入生ガイダンスでは学生と教員間のコミュニケーションをとる材料として「自己出身カード」を記入させている。3、4 年時での少人数に抑えた「ゼミ」における双方向授業を活用し、それが「卒業論文」へとつながる体制が整っていることは評価できる。主体的な学びの事例、インタラクティブ（双方向）な授業展開のための少人数授業の事例、教員・学生間や学生同士のコミュニケーション機会の確保の事例、授業方法としてグループ活動の活用の事例に記された積極的な取り組みや DB ポータル、Manaba などの活用による授業外学習の課題提示の確認を行っている点は評価できる。</p> <p>また、部局独自の学習成果の測定指標として卒業論文について「必須科目のため全学生が卒論を提出、提出者の5割以上が S~A 評価を目標とする」とあり、以前は未達成だった全学生（休学者を除く）の提出を達成したことは評価できるが、S~A 評価は5割未満に留まっていることから更なる学生指導に期待したい。</p> |

また、学修行動調査結果による学生の満足度についても検証し課題を抽出されていることは高く評価できる。今後全学的な学修成果可視化の実現のために、DP（学位授与方針）・AG（到達目標）の修得度がグラフ化される過程において、中国文学科の取り組みが一層活用されることが期待される。

一方、事業計画とされている「教育効果の可視化」について、今設定されている評価指標と目標値は、達成度が第3者に分かりづらいため、再考が望まれる。

◆評価の基準について

※各基準の「自己評価」は、各部局の判断に委ねられます。なお、青字部分は、本学としての解釈です。

| | |
|---|--|
| S | 大学基準に照らして極めて良好な状態にあり、理念・目的（教育研究上の目的）を実現する取り組みが卓越した水準にある。 (評価の視点に対して、クリアしており、さらに向上させるための取り組みを行っている、または、他部局の参考となるような特色ある取り組みを行っている場合) |
| A | 大学基準に照らして良好な状態にあり、理念・目的（教育研究上の目的）を実現する取り組みが概ね適切である。 (評価の視点に対して、クリアしている状況と判断する場合) |
| B | 大学基準に照らして軽度な問題があり、理念・目的（教育研究上の目的）の実現に向けてさらなる努力が求められる。 |
| C | 大学基準に照らして重度な問題があり、理念・目的（教育研究上の目的）の実現に向けて抜本的な改善が求められる。 |

<注> 「大学基準」は大学基準協会「大学評価ハンドブック」を参照のこと。

解説にある「大学は云々・・・」については、学部、研究科等の現状に置き換える。

基準4 教育課程・学習成果

【大学基準】

大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を定め、公表しなければならない。また、教育課程の編成・実施方針に則して、十分な教育上の成果を上げるための教育内容を備えた体系的な教育課程を編成するとともに、効果的な教育を行うための様々な措置を講じ、学位授与を適切に行わなければならない。さらに、学位授与方針に示した学習成果の修得状況を把握し評価しなければならない。

(解説)

大学は、その理念・目的を実現するために、授与する学位ごとに、修得すべき知識、技能、態度など当該学位にふさわしい学習成果を示した学位授与方針を定め、公表しなければならない。また、学位授与方針に基づき、教育課程の体系、教育内容、教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等を示した教育課程の編成・実施方針を定め、公表しなければならない。

大学は、学士課程、修士課程、博士課程及び大学院の専門職学位課程のいずれの学位課程にあっても、法令の定めに加え、自ら定める教育課程の編成・実施方針に基づいて授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しなければならない。その際、学術の動向や、グローバル化、情報活用の多様化その他の社会の変化・要請等に留意しつつ、それぞれの学位課程における教育研究上の目的や学習成果の修得のためにふさわしい授業科目を適切に開設する必要がある。また、学問の体系などを考慮するとともに、各授業科目を大学教育の一環として適切に組合せ、順次性に配慮し効果的に編成する必要がある。

大学は、教育課程の編成・実施方針に基づき、授業内外における学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じなければならない。その一環として、適切なシラバスを作成するとともに履修指導を適切に行い、また、授業や研究指導の計画に基づいて教育研究指導を行うほか、授業形態や授業内容、授業方法に工夫を凝らすなど、十分な措置を講ずることが必要である。

大学は、履修単位の認定方法に関して、いずれの学位課程においても、各授業科目の特徴や内容、授業形態等を考慮し、単位制度の趣旨に沿った措置を採ることが必要である。また、教育の質を保証するために、あらかじめ学生に明示した方法及び基準に則った厳格かつ適正な成績評価及び単位認定を経て、適切な責任体制及び手続によって学位授与を行わなければならない。

大学は、学位授与方針に示した知識、技能、態度等の学習成果を学生が修得したかどうかを把握し、評価することが必要である。そのために、学習成果を様々な観点から把握し評価する方法や指標を開発し、それらを適用する必要がある。

大学は、教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価し、その結果を改善・向上に結びつける必要がある。その際、把握し、評価した学生の学習成果を適切に活用することが重要である。